

2015年8月19日(水)
 メディカル・データ・ビジョン株式会社
 TEL:03-5283-6911(代表)

MDV診療データ調査リリースvol. 8 「入院における後発品処方実態調査」

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:岩崎 博之 以下、当社)は、入院における後発品の処方実態についての調査結果を発表いたします。

厚生労働省は、後発薬の使用割合を80%以上に拡大するという目標を掲げました。それに伴い、2016年の後発医薬品係数の評価引き上げや後発医薬品使用体制加算の算定要件見直しも予定しており、後発薬の処方動向は今後も注目が集まります。そこで今回は、入院における後発医薬品の処方がどのように推移しているのか、その実態を見てみます。

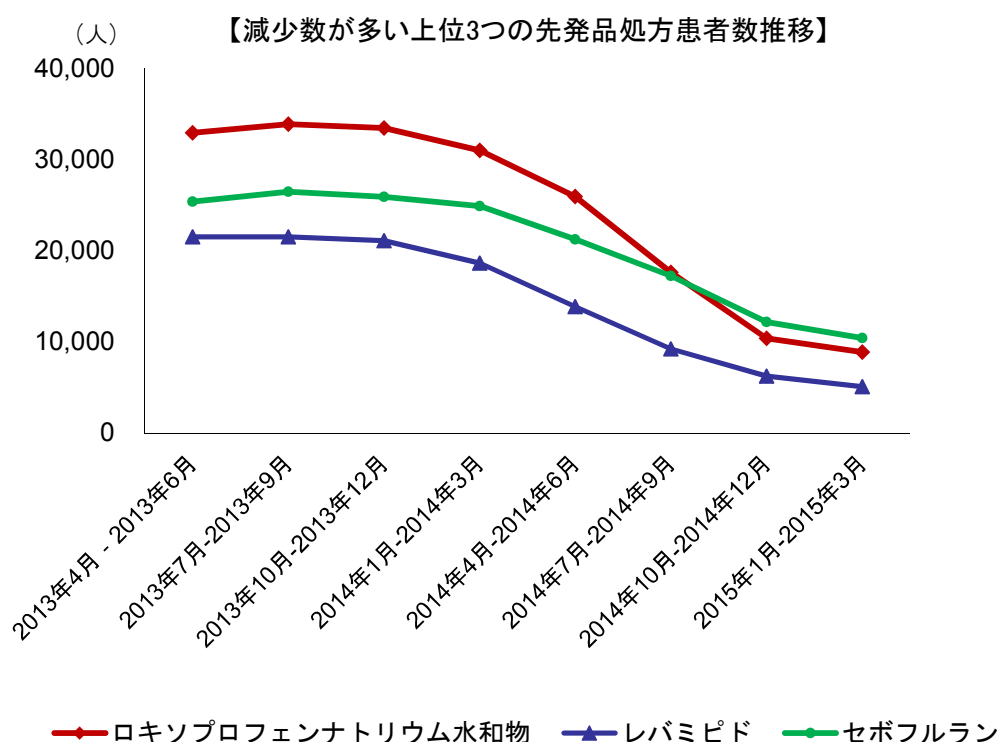
【サマリ】

- **先発品処方患者数が最も減少したのは「ロキソプロフェンナトリウム水和物」**
- **ロキソプロフェンナトリウム水和物後発品の処方患者数において後発品は約2倍増加、先発品は約1/4減少**
- **処方患者数の多いロキソプロフェンナトリウム水和物後発品上位3製品は「EMEC」「日医エ」「タイヨー」**

【先発品処方患者数が最も減少したのは「ロキソプロフェンナトリウム水和物」】

最初に、2013年4月～2015年3月までの入院における先発品処方患者の減少人数が大きい上位3つの一般名をみてみます。

2013年4月から2013年12月においては3つの一般名ともほぼ横ばいの推移となっていますが、2014年1月から全ての一般名で処方患者数が減少しています。最も減少数が多いのは「ロキソプロフェンナトリウム水和物」です。2013年4月-2013年6月時点では32,956人だったのに対し、2015年1月-2015年3月には8,887人と73%減少しています。同時点でレバミピドは21,558人から5,102人と76%に、セボフルランでも25,397人から10,453人へと半数以下に減少しています。

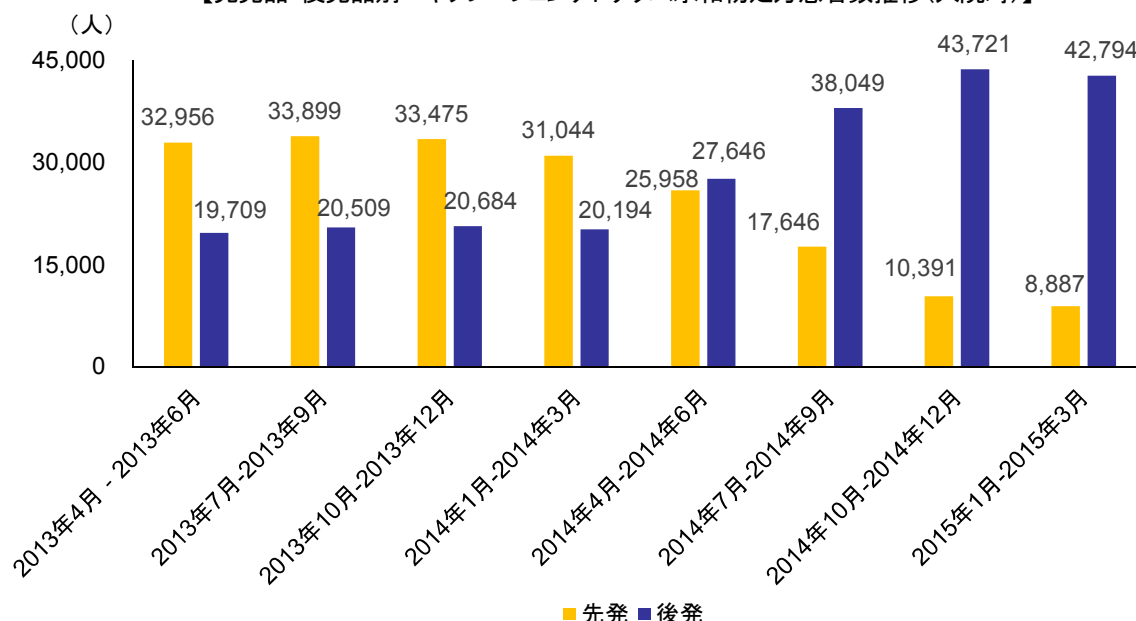


【ロキソプロフェンナトリウム水和物において後発品は約2倍に増加、先発品は約1/4に減少】

次に2013年4月から2015年3月の入院における先発品の処方患者数で、減少人数が最も多かったロキソプロフェンナトリウム水和物処方先発品・後発品処方患者数の推移をみてみます。

後発品の処方患者数割合は19,709人から42,794へと約2倍に増加、先発品は32,956人から8,887人へと約1/4に減少しています。

【先発品・後発品別ロキソプロフェンナトリウム水和物処方患者数推移(入院時)】

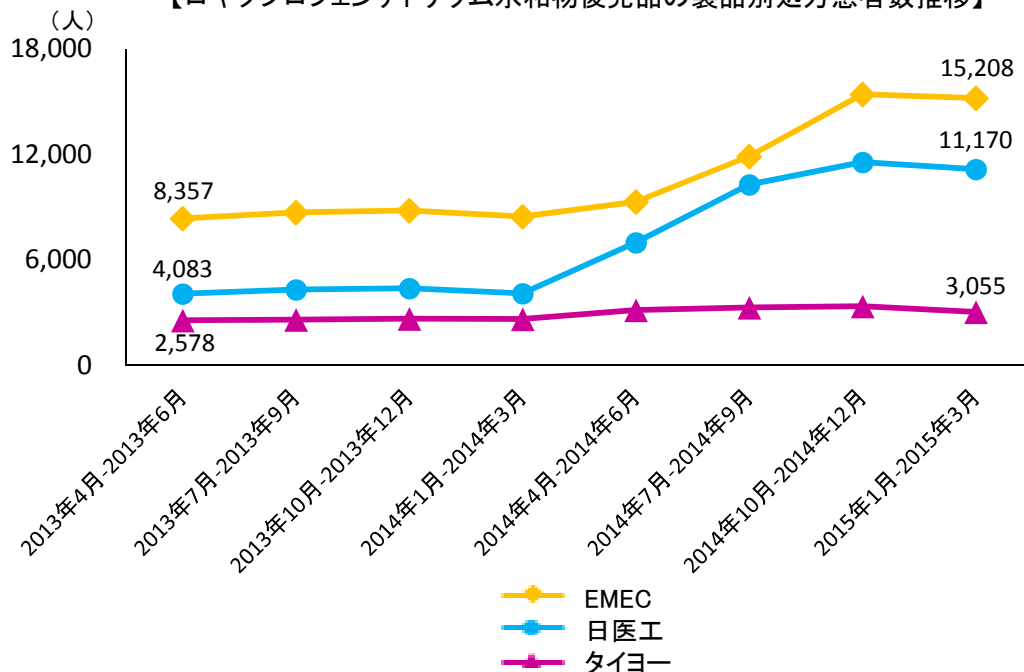


【処方患者数の多いロキソプロフェンナトリウム水和物後発品上位3製品は「EMEC」「日医工」「タイヨー」】

最後に、2013年4月から2015年3月の入院における、ロキソプロフェンナトリウム水和物後発品の中で処方患者数の多い上位3製品をみてみます。

2013年4月から2015年3月において、処方患者数が最も多い製品メーカーはエルメッドエーザイで、期間内合計で約86,000人に処方されています。伸び幅も大きく、2013年4月-2013年6月と2015年1月-2015年3月を比較すると約1.8倍の処方患者数となりました。次いで日医工は同期間内で約57,000人に処方されており、その伸び幅は約2.7倍です。タイヨーは約23,000人で、ほぼ横ばいの推移となっています。

【ロキソプロフェンナトリウム水和物後発品の製品別処方患者数推移】



【調査概要】

- 調査手法: 当社が保有する「診療データベース」より抽出分析
- 調査対象: 二次利用の許諾を得た200病院の急性期病院(がん拠点病院85病院を含む)のうち、調査対象期間のデータがすべてそろっている125病院、約117万人
- 調査期間: 2013年4月～2015年3月